

5・15沖縄へ!

全学連(織田陽介委員長)書記局通信

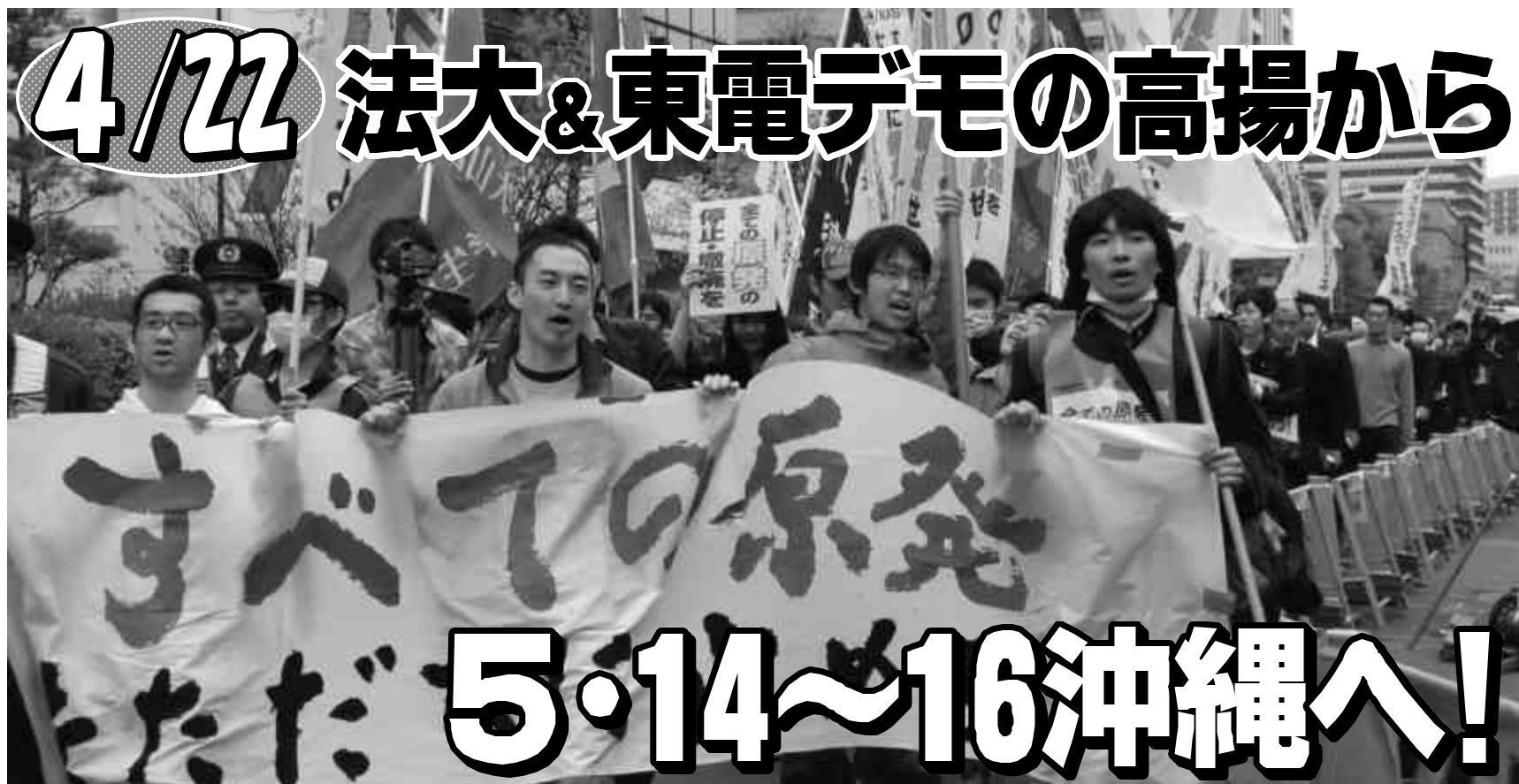
2011年4月26日

No 1

Tel 050-3036-6464

mail_cn001@zengakuren.jp

http://www.zengakuren.jp/



4 / 22 全国学生救援連絡会議での織田委員長提起

【1】私たちは何を始めたのか

(1) 巨大地震から40日、

署名運動開始から3週間

大震災から1ヶ月半、署名運動を始めて3週間たった。この運動の実感、みんながやってきた感想を出し合いながら、今後の運動の方向性をしっかり議論したい。

今日、二つのデモと署名提出を行った。私たちは一歩踏み出した。私たちが何を始めたのかをしっかりと見据えることが非常に大事だ。署名運動を始めて、原発への怒りと大衆の活性化をみんなが肌で感じ、ここに集まってきている。

さらにこの一ヶ月半は、国家によるデマに次ぐデマが繰り返されてきた。この社会の本性がすべて明らかになった。その中で、自分の生き方、もしくは今までの闘いを自分自身でいろいろ見つめなおした。

僕らの闘いや生き方が、これほど時代にかみ合う時は今までなかった。これほど僕らの闘いが大きな意味を持ち、緊張感を持つ時代もなかった。僕自身、全学連委員長をやってくる中で作りだしてきたものの一切がもう一度問われるようなところに入った。だから今日は、その始めた運動の大きさと決意をしっかりと自分の言葉で述べたい。

(2) 明確に始まった大衆運動の季節

- 歴史が動き出した

大衆運動の季節が到来し、歴史が動き出した。4月10日、高円寺で1万5千人のデモがあった。この映像はぜひ見て欲しい。若者が「きれいな空気を吸わせろ」「生きさせろ」とシュプレヒコールあげてデモをしている。怒りに満ちた真剣な声だし、生きることをかけた闘いだ。しかも、9割が学生と青年労働者だ。この次は5月7日と言われている。

参加者の怒りはこんなものでは収まらない。もっとできるはずだと思っている。東電が放火されでもおかしくない。

2波のデモ後に行われた全国学生救援連絡会議





法大文連委員長・斎藤郁真君

他方で、「主催者は不真面目だ」という声もある。主催者の「思惑」をこえて、集まった人たちはものすごく真剣だった。右折のデモコースを勝手に左折するなど、怒りがものすごい。警察権力なんて目じゃない。

また、文科省に対して福島の子供たちが申し入れをしている。「福島の子供が放射能を摂取していい基準値を20ミリシーベルトにあげる」という決定に対し、

危機感を燃やしてただちに行動を起こした。そこで、大衆の生きんがための必死の訴えが発せられている。「政治家は本当に私たちと同じ人間なのでしょうか。心はあるんでしょうか。日本は変わらなきゃいけません。政治家が変わらないのであれば私たち国民が変わらなければいけません。お父さんお母さん立ち上がりましょう。私たちが動かなくては誰も子どもたちを守ってはくれないのです。まず命を大事にする国に住みたいです。そして誰よりも子どもたちの命を大事にできる国に住みたいです」。

この社会と国家のあり方を真剣に問うている。「一人じゃ何もできないが、何とかしたい」—このジレンマを何とかしたい、デモをやりたいという声であふれている。僕らはこの怒りに真っ正面から結びつく決断をした。次の高円寺デモに僕らは断固登場する。そこに集まってくる学生・青年に僕らの方針を訴える。一気に大衆運動に火がつき拡大していく、このことをしっかりと認識しよう。

(3) 原発事故も大恐慌も深化し、 大衆の行動化の条件はますます成熟する

原発事故について「6～9ヶ月で収束」なるデマを政府が垂れ流している。チェルノブイリ事故ですら、10日ぐらいで事故そのものは収束している。だけど福島事故は、一ヶ月以上たってもまだ何も見えてこない。これから何が起こるか分からない。チェルノブイリは25年たった今も、7000



無期停学処分と闘う倉岡雅美さん

人体制で管理されている。「6～9ヶ月」なんて全部ウソだ。「解決するからもう声をあげなくていい」、そういう政治宣伝だ。

もう一つは、この地震は今後3～4年続くと言われている。つまり、全国で「第二第三の福島」が起こるということを認識しなくてはならない。

4月7日の余震では、女川と東通原発、さらに六ヶ所の再処理工場で冷却装置が一時ストップした。「想定内」の震度5で装置が止まった。では浜岡原発や柏崎刈羽原発はどうなのか。「第二第三の福島」が明日起きてもおかしくない。

つまり、「6～9ヶ月で収束」なるデマの正体は、どんなに人が死んでも原発政策を継続するという政府の立場だ。このことをはっきりさせなければならない。だから「今すぐ停止・廃止せよ！」という訴えが本当に重要だ。

もう一つは、大恐慌の問題だ。大恐慌で資本主義社会が崩壊を開始した。これからは、人民に一切の犠牲を転化して生き延びようとしていく。アメリカは国家破綻寸前だ。法律で決まっている債務上限を引き上げ、何とか成り立っている。「これ以上の債務で国家が破綻する。だったら法律を書き直せ」と。アメリカは今、紙くず同然の紙幣をどんどん印刷することと、法律改訂で生き延びている。

さらに、エジプトを先頭とする中東の革命による石油支配の崩壊に対し、軍事介入が始まっている。フランス軍が介入したり、リビアの反政府軍の一部とイタリアの軍需資本が結合して、武器を供与するという事も始まっている。

何より、29年大恐慌と同じ大失業の時代がこれから始まる。とりわけ日本で始まる。震災を口実にして100万人規模の首切りが始まっている。大恐慌もしく原発問題が本格化する中から、ますます大衆の行動化が起きてくる。

(4) 私たちの主体的行動が結びつくとき、 この情勢は歴史を動かす力になる

万の規模のデモを前に僕らがやらなければならないことの一つは、怒りを徹底的に解き放つ路線を持つことだ。15000人を5万10万にする、そういう路線が求められている。

何より被災地の怒りに徹底的に学ぶことだ。被災地の怒りとは、国家への幻想が崩壊し真実を目にした怒りだ。被災地だからこそ社会の本質と真実が見える。だからこの怒りと連帯し、被災地の立場に立ちきり私たちは訴える。

もう一つは、デモに来た万の人たちに明確な行動方針を出すことだ。「今こそ東電本社にデモをしよう」「沖縄に行こう」「広島に行こう」—何より、職場・キャンパスで闘うという最も困難な闘いを呼びかけ推進する立場に立つことだ。

本当に原発のない社会をつくるためにどうしたらいいかを真っ正面から訴える。職場やキャンパスで闘う中から初めてこの社会を変えることができるし、原発を廃絶することができる。街頭でトコトン怒りを爆発させ、そのエネルギーを職場・キャンパスに解き放つ。その中から労働組合と学



東北大・日就寮からのアピール



東北大学学生自治会委員長・石田真弓君

生自治会をつくる。

情勢の激動と大衆の活性化に対し、われわれはこれまでの自らの闘いの枠を超える大きい運動をつくっていく。その中軸に、反原発の大署名運動がある。

さらに、労組交流センターが中心に「震災解雇労働相談センター」を立ち上げ、100万単位での震災解雇に立ち向かっていこうとしている。

僕らの運動が持っているものすごい位置と大きさを見据えよう。万の規模を相手にすることで、初めて僕らの中途半端さや不十分さを全部払拭していくことができる。

【2】原発と闘うとはどういうことか

(1) 私たちの立場はただ一点、
「全原発を今すぐ停止・廃止せよ」

(2) 国家が丸ごと腐っている

原発問題を通して直面する問題は、国家丸ごとが腐っているということだ。かつては「鉄は国家なり」と言われていた今は「電力は国」だ。世界有数の電気代の高価格。役員報酬は平均7700万円。社長は1億をこえている。それが被曝労働で成り立っている。被曝労働者は非正規だ。若者が就職できないことを盾に被曝労働をさせ、命を吸い取り、役員報酬がつくられている。これが電力の正体だ。5000億ともいわれる建設費でゼネコンや電機資本が儲け、しかも3%のキックバックが政治家に入る。儲けた金でマスコミも大学もすべて買収している。裁判所もグルになった国家犯罪だ。こんな社会を変えない限り、若者は幸せになれない。被曝労働で成り立つ電気。戦争と基地で成り立つ沖縄経済。こんな社会のあり方が続く限り、僕らは幸せになれない。

起きていることはエネルギー問題ではない。エネルギーのために原発を動かしているのではない。「原子力がエネルギーの3割」というのはウソで、稼働している電気のうちの3割にすぎない。稼働していない電気量は計算に入っていない。原発は稼働し始めたら止められないし、止めれば一日1億円の損失だ。逆に火力発電所はほとんど稼働していない。計画停電で恫喝して原発を継続しようとしていることに対し、「今すぐ止める！」と言っていい。

(3) 米帝の核独占政策と日本の原発導入、そして日本の反核運動の力

日本に原発が導入される過程で、アメリカのビキニ水爆

実験、第5福竜丸の被曝があった。日本の反核運動がその中で大爆発する。実はこれがアメリカの核政策、世界政策の最大の障壁になった。日本はその当時、戦後革命に敗北して朝鮮戦争が始まり、レッドパージが起こっていた。労働運動が壊滅状態に追い込まれていた。これが反核運動で息を吹き返す。労働者が再び立ち上がり始める。この労働運動・学生運動をつぶすため(「毒を以て毒を制す」)日本に原発が導入されていった。日本への原発導入は、初めからアメリカによる核独占政策の基軸として日本の労働運動・学生運動をつぶすために行われてきた。

重要なことは、日本の反核運動がそれをつぶされなかったことだ。労働運動・学生運動の爆発の力になり、それが60年安保闘争につながっていく。

帝国主義への怒りと闘いを押さえつけてきた米帝の世界支配戦略の柱が核と安保だった。日本の反戦運動は、反核と反基地を基軸にして行われてきた。これが、アメリカの世界戦争戦略を絶えず阻む力として闘われてきた。

(4) 労働組合・労働運動・労働者の党の問題

(5) 学問・科学がこれほど腐敗した時代はない

今もなお、科学の名をもってフクシマの現実が正当化され続けている。学問とは本来、人間が幸せになるためのものだ。こんなあり方は学生として絶対に許してはならない。

04年の国立大学法人化がフクシマの現実を引き寄せた。2000年、東北大では国立大学法人化反対でストライキを行った。いま被災地になっている東北大では、「法人化は学問の最終的な腐敗に行きつく」と訴え、闘いに立ち上がった。東北大生の声を押し切って法人化を強行し、その帰結が今の現実ではないか。当時、国立大学法人化について「国の意思を大学運営に反映させうる制度」(自民党文教部会提言)と言われていた。実際その通りになったではないか。国家・資本に全く逆らえない大学になったではないか。何人の研究者が犠牲になり、どれだけの学費が上がったのか。国立大学法人化の中で全大学人が苦しめられ、闘いに立ち上がってきた。その先頭に私たちの闘いがあった。

大学の腐敗が行き着いた先がフクシマだ。今こそ、東北



法大・総長室前は全国学生の怒りであふれかえった

大生が国立大学法人化に反対してきたんだとハッキリさせる必要がある。2000年ストに続き、私も闘いに立ち上がった有朋寮闘争があった。その後に法大闘争が闘われ、大学の腐敗と新自由主義大学に闘いが叩きつけられてきた。

だからこそ、法大闘争を国立大学法人化の中で苦しめられてきたすべての大学人の怒りを解き放つ闘争にしなければならない。原発問題を最大の契機に、国立大学法人化体制を白紙撤回させる闘いに発展させなければならない。

最も困難な闘いから僕らは逃げずに闘ってきた。隣の仲間と激論しながら闘いぬいてきた。自分の大学で自分の組織をつくり闘うのが僕らの闘いであり、いま青年・学生が千万の規模で闘いに立ち上がり始めた時、何を訴えるのかの回答がここにある。僕らこそが自信をもって、闘いに立ち上がり始めた青年・学生に勝利の道を指し示そう。

(6) 人間が持つ社会変革の力と思想への 歴史上最大の挑戦として核がある

人間は科学と思想を生みし、この社会を変革してきた。運動と組織をつくり闘ってきた。核はその一切を否定し、人間を滅ぼし、草木も生えない地域を生みだし、マルクス主義を解体する。だから、私たちは核と真正面から立ち向かい、人間はこの社会を変える力があるのか、思想をもつのか、組織をつくれるのか、それを真剣に問う中でしか歴史は前進しない。原発と闘うわれわれの闘いは本当に豊かだし、この社会を根底から変える力をもっている。これがこの一ヵ月半でつかんだことだ。

【3】私たちの運動の方向性

(1) 被災地と連帯し、 被災地の立場に立つこと

7月に東北大集会をやって全国学生が集まる。東北大の学生が1万の規模で声を上げる大集会だ。現実を切り裂く被災地の声こそが真実だ。被災地は震災解雇も計画停電も認めない。東北大生と連帯して僕らは闘いに立ち上がる。

(2) 沖縄からヒロシマへ

今年は8月ヒロシマ世界大会をやる。ビキニ水爆実験の年に、第一回原水禁大会が行われた。そこから反核闘争が大爆発していく。今年をそういう年にしよう。フクシマからヒロシマへ。間違いなく今年是世界大会になる。核と安保が日本の反戦闘争の核心であり、世界を変えていく力そのものだ。さらに5月沖縄が非常に重要だ。万の規模で動き出した青年・学生に、「沖縄とヒロシマに行こう」と真正面から呼かける。そして署名を全国で集めて、東京に集まっていく。このサイクルの中から大きな運動をつくっていく。

(3) キャンパスで闘うこと

デモのうねりをキャンパスへ。キャンパスからさらに大きなデモへ。その怒りをもう一度キャンパスへ。この闘いの中で僕らは大学を変革する。大学を学生の手に取り戻す。

(4) 大衆の怒りと真正面から結合して、 運動の狭さと曖昧さを突破する

万の人が「うん」と言う方針を提起できる運動にする。そして、本当に勝つためには何が必要なのかを提起できる路線も必要だ。数万の規模の大衆を相手に真実を語り、真正面からどうやったら勝てるのかを訴える力をもって闘いに臨み、僕らのこれまでの「不十分さ」を全部突破する。今までの殻をうち破る。その闘いの中から、5月沖縄現地闘争に総決起し、反原発署名大運動を爆発させよう！（以上）



東電本社に2348筆の署名提出と申し入れ

沖縄闘争2011



- ◆辺野古新基地建設阻止! 日米安保粉碎! 菅政権打倒!
- ◆全原発の即時停止! 反戦・反核・反基地・反原発の爆発へ
- ◆朝鮮侵略戦争阻止! 団結し学生自治会を甦らせよう

● 5月14日(土)

- 11時 沖縄県庁前集合
～ひめゆり資料館を見学
- 18時 労働者・学生総決起集会

● 5月15日(日)

- 午前～昼
嘉手納基地と普天間基地を見学
- 12時半 沖縄県民大会に合流
- 18時 全国学生交流集会

● 5月16日(月)

- 辺野古現地行動
～昼過ぎに那覇市で解散